

持続可能な農業推進コンクールの授与式

真壁高（茨城）が栄冠

関東農政局は29日、さいたま市で、2022年度の「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」の関東農政局長賞と特別賞の授与式を開いた。関東農政局長賞に、GAP（農業生産工程管理）部門で茨城県桜川市の県立真壁高校が、有機農業・環境保全型農業部門で東京都多摩市の恵泉女学園大学が選ばれた。



表彰を受ける真壁高校の代表者
（29日、さいたま市で）

GAP部門は4点、有機農業・環境保全型農業部門は5点から選んだ。受賞者らが表彰を受け、取り組みを発表した。

真壁高校は整理・整頓、清掃・清潔、しつけ（習慣）からなる「5S」と見える化、マニュアル化の「2M」を基本

に国際水準GAPを実践。ブドウとイチゴでグローバルGAP認証を取得している。22年はマレーシアにブドウを、23年は台湾にイチゴを輸出した。認証取得で海外輸出を果たした農業教育機関の実践事例として、GAPの普及にも貢献する。



共に農業を持続させる
「地域支援型農業（C

SA）」を展開。地域の人々が学生と有機農業を体験し、多様な人が集う場になっている。特別賞は、有機農業・環境保全型農業部門で長野県小布施町の工藤陽輔氏が、GAP部門で同県富士見町の富士見高校が受賞した。

恵泉女学園大学は必須科目で、学生が2人

一組になって1年間、

有機JAS認証を取得

する教育農場で10品目

以上の野菜を育てる。

収穫物は大学祭やオー

プンキャンパスなどで

売り、オーガニックレ

シピも開発する。農場

の一部では、消費者と